



下水道は、風呂やトイレ等で使った水をきれいにして川に戻します。下水道の整備により、トイレが水洗化され、ハエ、蚊などの害虫発生が少なくなり、人々が清潔で快適な生活を送ることができます。また、市街地に降った雨水を速やかに排除し浸水を防いでいます。このように、下水道は重要な都市基盤施設です。

「下水道の日」は、1961年(昭和36年)に下水道の普及およびアピールを図るために「全国下水道促進デー」として定められたものが始まりです。

当時は下水道の普及が著しく遅れており、また経済が高度成長した反面、生活環境や公共用水域の悪化が著しくなっており、下水道の整備・促進に対する要望が高まっていました。

それから40年が経過し、2001年(平成13年)が21世紀のスタートの年でもあることから、より親しみのある「下水道の日」に名称が変更されました。

9月10日と定められたのは、下水道の大きな役割の一つである「雨水の排除」を念頭に、台風シーズンである210日を過ぎた220日(立春から数えて)が最適であるとされたためです。

毎年、9月10日を中心とした前後1週間に、下水道に対する理解や関心を深めていただくため、下水道事業者である地方公共団体などが様々な催しを全国で開催しています。

埼玉県においては、埼玉県、埼玉県下水道協会および公益財団法人埼玉県下水道公社の三者が共催し、「下水道の日」の記念事業として、「作品コンクール」や水循環センターを見学する「下水道の日の集い」を実施しております。